

UDスポット
京王プラザホテル
けいおうプラザホテル

京王プラザホテルの「プラザ」は、スペイン語で「広場」という意味です。この名前には、開業当時から「老若男女が集い、自由に過ごせる広場のような場になりたい」という思いが込められています。この「プラザ思想」は開業から五十年以上経った現在まで受け継がれ、ユニバーサルルームや補助犬用トイレの設置のほか「心のバリアフリー」の推進など、業界に先駆けた取組につながり、ハード・ソフトの両面で利用しやすいホテルとしてさまざまなお客様に広く利用されています。

ニュース6号では、京王プラザホテルのユニバーサルデザインに対する取組や思いについてご紹介します。

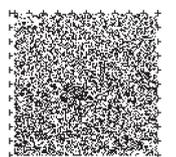
ユニバーサルデザイン

UDとは？

年齢・性別・国籍・個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの方が利用できるよう生活環境その他の環境をつくり上げていく考え方です。

新宿区には、多くの外国人をはじめ、様々な人々が生活しています。区では、移動しやすく、利用しやすく、わかりやすいまちを目指して、令和2年3月にUDまちづくり条例を制定しました。

このニュースレターでは、新宿区の取組や、UDスポットの紹介、利用者の声などをお伝えしていきます。



けいおう

京王プラザホテル

Keio Plaza Hotel

UD探検隊が行く！新宿UDまちづくりスポット



モニター
の表示

聴覚障害者に対して
いろいろな方法で
来客やデバイスの着信をお知らせ

照明の点滅

枕元のボタンでカーテンを
自動で開閉できる

クッションの振動

電動椅子で
立ち上がりを補助



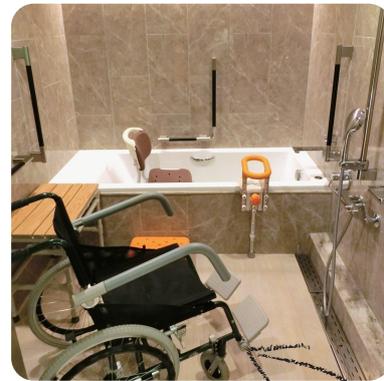
アジャスタブルなユニバーサルルーム
利用者に合わせて部屋の設備を調節することで、
誰にとっても利用しやすい部屋にできます。
室内は車椅子でも移動しやすい広々とした空間で、
誰もがゆったりと快適な時間を過ごすことができます。



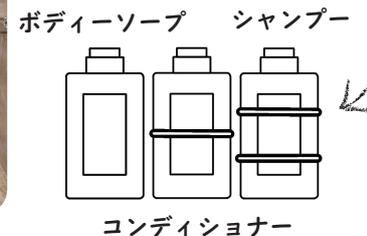
シグナルエイド（視覚障害者
向け小型電波送受信機）に対応する室内装置により、
客室の方向などを音声で案内



視力が低下した人にも
廊下の端と中央が
わかりやすく、歩きやすい
デザインの絨毯



バスアメニティ
容器に巻いた輪ゴムの本数で
各アメニティを区別できる



視覚障害者が触って
確認する際も温度が
冷たく感じない客室案内

車椅子も入れる
広々としたバスルーム

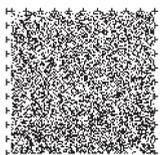
補助犬用の
ボウルやマットも
貸出可能



握力が弱い人でも
開け閉めしやすいドアノブ



車椅子ユーザーでも
利用しやすい高さのミニバー



Uni-Voice

Good UD ポイント

UD 推進の仕組み「バースアイ」

社員有志が参加する部門横断プロジェクト「バースアイ」では、バリアフリーやユニバーサルデザインに関する活動を進めています。

体験イベントやチャリティーバザーなど、さまざまな活動に取り組んでいます。



京王プラザホテル公式 HP より

運営者インタビュー

京王プラザホテルのユニバーサルデザインに関する取組は、1988年にリハビリテーション世界会議の会場となったことがきっかけで始まりました。その会議に参加される車椅子ユーザーの方々のために、入口の幅を広くしたり室内にスロープを設けたりした客室を15室設置しました。その後、「もっとさまざまな障害に配慮できるようになりたい」というスタッフの声もあり、視覚・聴覚障害者に向けた配慮などハード・ソフト共に取組を強化してきました。2002年に誕生した**ユニバーサルルームは、障害の有無や程度に関わらず、全ての人にとって利用しやすい部屋を目指して作られました。**「アジャスタブル（調整できる）」、「アダプタブル（適応できる）」をコンセプトとしており、手すりや機器などをご要望に応じて設置することで、お客様一人一人に合ったお部屋に調節することができます。**このような障害者専用ルームではない“ユニバーサルルーム”はホテル業界では初めての試みであり、多くの方々からご好評を頂きました。**



京王プラザホテル
営業戦略室企画広報 支配人
杉浦さん

2018年には、改修を経て新たなユニバーサルルームが誕生しました。設計の際には、高齢者体験キットを関係者に体験してもらうことで、当事者の視点を共有しました。以前のユニバーサルルームで好評だった、部屋の機能の調整が可能という特徴は踏襲しつつ、**今までユニバーサルルームを利用されたお客様の声や専門家の知見、ホテルスタッフの接客経験にもとづく意見なども反映して、**さらに使いやすく**快適なお部屋を目指しました。**その際大切にされたことは、ホテルらしさです。あらゆる方にホテルという非日常空間で過ごす特別な時間を楽しんでもらえるよう、機能的でありながらより優雅で洗練された空間を作り上げました。

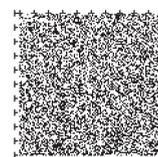


ホテル3階メインロビー

京王プラザホテルには、国内外からさまざまなお客様がいらっしゃいます。宿泊だけでなく、会議や学会、ウェディング、レストランでの食事など、ホテルを訪れる方の目的は多種多様です。そして、年齢、障害の有無、言葉や文化の違いなど、お客様の事情やバリアは一人一人異なり、それら全てに完璧に対応できる設備を整えることは非常に難しいです。そのため私たちスタッフは、**お客様一人一人に必要な応じてお声がけし、それぞれのバリアを取り除く「心のバリアフリー」を重視**しています。**社員研修では、ユニバーサルマナー検定の受講やサービス介助士の資格取得などを推進**するほか、お客様へのお声がけの大切さなどを伝えています。また、有志の社員による部門横断プロジェクト「バースアイ」では、さまざまな活動を通じてバリアフリーやユニバーサルデザインについて啓発しています。開業当時の「老若男女が自由な時間を過ごせる広場（＝プラザ）でありたい」という「プラザ思想」を受け継ぎ、あらゆる方が快適に過ごせるホテルのあり方を今後も追及していきます。

補助犬専用トイレ

2007年、ホテル南館ロビーの外側に補助犬用トイレが設置されました。「外出先で補助犬が安心して排泄できる場所がほしい」という利用者の要望に応えた、ホテル業界では初めての試みです。丈夫な木材と犬の足に優しい人工芝を使用し、車椅子ユーザーでも片づけやすい高さの段も設置されています。



Uni-Voice



住み慣れた地域に安心して住み続けることができるよう、また、障害のある子供も障害のない子供も共に学び、共に遊び、共に育つよう、インクルーシブな環境づくりが重要です。

今回ご紹介したいのは、そもそも「障害」とは何かについてです。かつて世界保健機関（WHO）は「障害」を3つに分類し、定義していました。例えば、病気のために手や足が麻痺するといった医学的な「機能障害」、手や足が動かせないために歩くことができないといった「能力障害」、さらに歩くことができないために仕事や学校に行けないなどといった「社会的不利」といった考え方です。この考え方は、「障害」があるために何かができないといったマイナスにとらえられ一方通行に理解されてきました。そこで、整理し改訂されたのが、国際生活機能分類（ICF）という考え方で（図）。人が生きていくうえで、困難さや困りごとは、いろいろな要素が複雑に絡み合っ

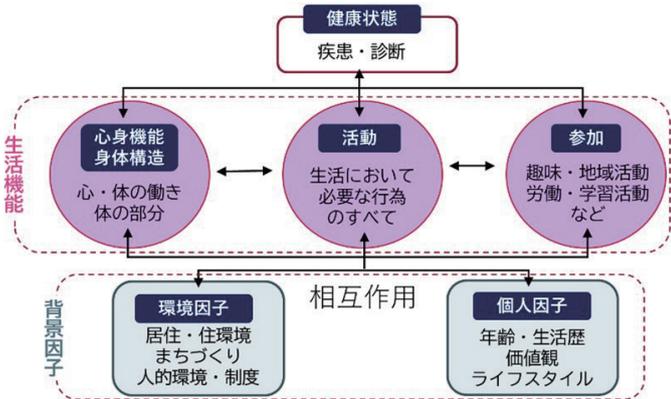


図 国際生活機能分類（ICF）の概念図

ひとりひとりに合った心地よい空間づくりを目指して



日本女子大学 家政学部
住居学科 助教
(一級建築士・福祉住環境
コーディネーター1級)
植田瑞昌さん

いて、例えば、仕事や学校に行くために歩くことができないならば車椅子を使えばよいですし、階段を上ることができなければエレベーターを使うこともできます。まちや建物などの周りの環境をととのえることで、困難さや困りごとは解消していくことが可能です。その他にも、健康状態や個人因子も、ひとの心や体の働き、生活に必要な食事や入浴などの活動、趣味や仕事などへの参加といった生活機能に、影響を与え合っていると言えます。

インクルーシブな環境づくり・まちづくりを考えるうえで、「障害」は個人の問題とするのではなく、環境によってもたらされることがあることを十分に理解する必要があります。一方で、多種多様な困りごとや困難さをなくすためにまちや建物といった公共の空間を一人一人に合わせた構成していくことは、とても難しいことです。様々な人が暮らす街だからこそ、多様性に配慮し選択肢を増やし、その子・その人・その時に合った環境を選択できるという考え方がこれからのまちづくりには大切ではないでしょうか。写真は、ドイツの街並みを映した何気ない一コマですが、ちょうど車椅子を使用した人たちが楽しそうに食事をしていました。店先に並べてあった机やイスは高さも形も様々で、自分に合った机を選んでも、好きな位置に座ることができるところで、あたりまえのことですが素敵ですね。



写真 ドイツの街並みと車椅子ユーザー

(今回のコラムはUDに詳しい専門家の方からご寄稿いただきました。)

新宿区からのお知らせ

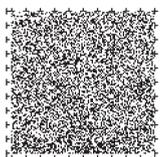
都立新宿山吹高校の高校生に、UDまちづくりについての授業を行いました！



授業の様子

昨年度からUDまちづくりニュースレターの作成にご協力いただいている、都立新宿山吹高校の高校生に向けて、授業を行いました。

今回の授業では、新宿区UDまちづくり事前協議アドバイザーの岡村正昭相談員に、UDの考え方について簡単なワークショップを混ぜえながらわかりやすく教えていただきました。



Uni-Voice

新宿区ユニバーサルデザインまちづくりニュースレター 第6号 (令和4年9月発行)

お問い合わせ先：新宿区景観・まちづくり課